

## 中部臨空都市(続)

空き地ばかりが目立つ「前島」であったが、分譲開始から10年が経過し、ここに来てぐんと活気が出てきた。

今年に入り、結婚式場や飲食店などとの契約が相次いでいる。中日新聞4月7日は「常滑・臨空都市 伸び盛り」と報じている。2012年12月「めんたいこパークとこなめ」、昨年は「コストコホールセール中部空港倉庫店」も開店し、集客力はさらにアップし、寂しかった「前島」が賑わいをみせている。先延ばしになってきたが、イオンの大型商業施設の進出も予定されている。

「前島」が活況を呈する一方で、現在は逆に空港島が3年近く新たな進出契約がなく、進出率も35.9%にとどまっている。「前島」が61.5%であり、全体の進出率は50.1%になる。2003年から分譲を開始したが、やっと半分の土地に進出が決まった状況である。

「至れり尽くせり」で分譲を推進してきたが、大半は賃貸である。臨空都市事業を支える愛知県企業庁会計を分析した梅原浩次郎氏は「開港後、1億円以上新規売却は極めて少ない。利益剰余金を使い果たすのか、大きな分岐点!」警鐘を鳴らす。企業庁会計の悪化は、一般会計にも影響を及ぼしかねない。

中部空港の乗降客数はどのような状況か。開港直後の2005年度は「万博効果」もあり1208万人であったが、リーマン・ショックなどでの下落から回復しつつあるとはいえ、2013年度は972万人にとどまる。名古屋空港のピークの1100万人をかなり下回る。こんな状況のもと、第2滑走路建設の動きが本格化しつつある。福岡空港でも、第2滑走路建設への環境影響評価の手続きが進んでいるが、2013年度の乗降客数は1929万人である。

そこで、写真のように「リニアで上昇気流期待」と、朝日新聞9月14日は報じている。

「品川から80分 集客狙う」とあるが、はたして可能なのか。中部空港が構想された際も、新幹線の新横浜から京都までの乗客が、中部

空港を利用するといった「試算」もあったと記憶している。「万博」頼みで空港建設が駆け足で進められたが、今度は「リニア」頼みで第2滑走路建設なのか。

これまで「過大需要予測」「地元負担膨張の構図」といった問題を指摘してきたが、ここに来て同じことを再び言わなくてはならないのか。もうやめにしてほしい。

(2014年11月2日)

